

## IV 養 鶏 部 門

### 1. 本県並びに全国の養鶏動向

農林水産省畜産統計によると、平成 25 年 2 月 1 日現在の飼養戸数は 56 戸、飼養羽数は 1,061 千羽となっている。経営者の高齢化や悪臭、衛生害虫等各種環境問題がある中で、飼養戸数、飼養羽数が減少の傾向があり、飼養戸数は前年対比 93.5%の戸数の減であった。飼養羽数は 89.0%の減と大きな減となっている。

平成 19 年からのバイオエネルギーへの利用による飼料高騰をはじめ、ガソリン、包装資材等も値上がりし、平成 25 年も飼料価格の高止まりで、経営にとっては厳しい決算が続いた年でもある。

しかし、一方では若手の経営者が育っている観が見られ、これらの後継者のグループが活発に活動を行い、900 万県民を有する大消費地という有利な立地条件を活かして、都市と共存する意欲ある取組みもされている。

大消費地という好条件に立地する本県の養鶏経営は、鶏卵の直販戦略を展開し、経営の向上を図っている。また、消費者の意向を分析・解析して、季節の羽数を調整しながら上手な経営を行っている経営等も見られる。これらは、「都市養鶏」と呼ばれる比較的少羽数の中小規模ではあるが、専門化の形態をなしており、都市と共存しながら多様な発展を図っている。また、比較的規模の大きな経営においてもやはり大消費地を背景に直販を折り込んだ経営を推進している。

しかし、全国的に見ると、少数の超大規模経営がスケールメリットで薄利を補おうとして、生産性の寡占化が進み、構造的な生産過剰の基調にあることは否めない。また、加工向けでは、一度液卵を利用すると価格の安さ、手軽さからリピーター化するため、液卵の輸入も数年前に比べて増加傾向にあり、経営は厳しい状況である。

平成 25 年の鶏卵の国内生産量は、2,501 千トン（前年比 99.2%）とやや前年を下回った値となった。また、輸入量は 132 千トン（前年比 115.6%）と年度によって差あるが、対前年比 15%とやや大きな動きであった。

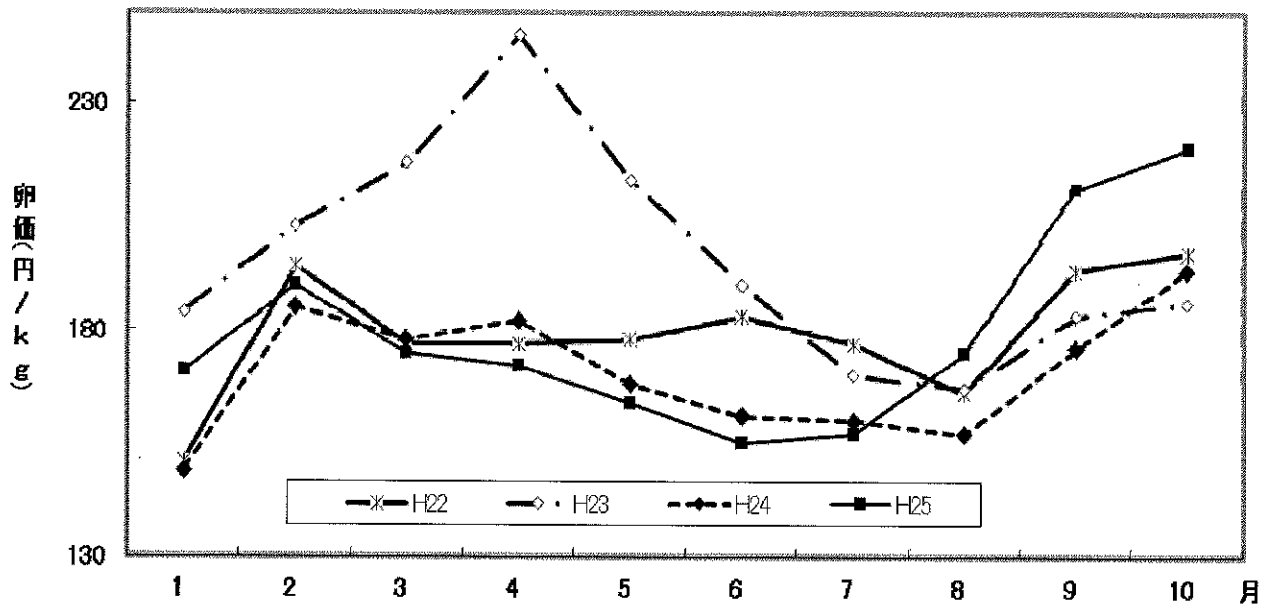


図1 卵価の推移(全農東京M級加重平均)

平成 25 年の卵価（図 1）は、1 月平均卵価 171 円で始まり、2 月には 190 円台になったが、2 月から 3 月にかけて横ばい状態で推移した。その後、150 円迄ランク落として、9 月から 12 月に向けて漸増した。9 月には 200 円にまで上昇し、11 月、12 月は 260 円の大台に乗せて推移した。12 月は前年度 230 円に対して 280 円とかなり高い卵価で、年間平均で 194 円/kg、対前年比 108.5%の卵価であった。

## 2. 診断農家成績の分析概要

### (1) 診断対象経営（農家）の概要

平成 26 年度畜産経営高度化促進事業の実施に当たり、指導対象農家 8 戸（経営診断に基づく改善指導が 3 戸、経営管理技術指導 1 戸、生産技術指導 1 戸、フォローアップ指導 3 戸）について平成 25 年度の診断データを収集したが、此处ではデータが明らかな 3 戸について概要を述べる。

対象農家の経営規模を平均飼養羽数で示すと、図 2 のとおりであり、2,000 羽台から 8,000 羽台であった。成鶏舎の形式は、開放鶏舎 1 戸、小型ウインドウレス鶏舎 2 戸であった。

診断対象経営の労働力の構成をみると、自家労力のみでの経営が無くなり、3 戸とも雇用労力を用いた経営であった。

経営の常時従事者数は、3~4 人であり、小規模経営では家族労働を主体とした形態で堅実に営まれ、雇用労力はパート雇用であった。

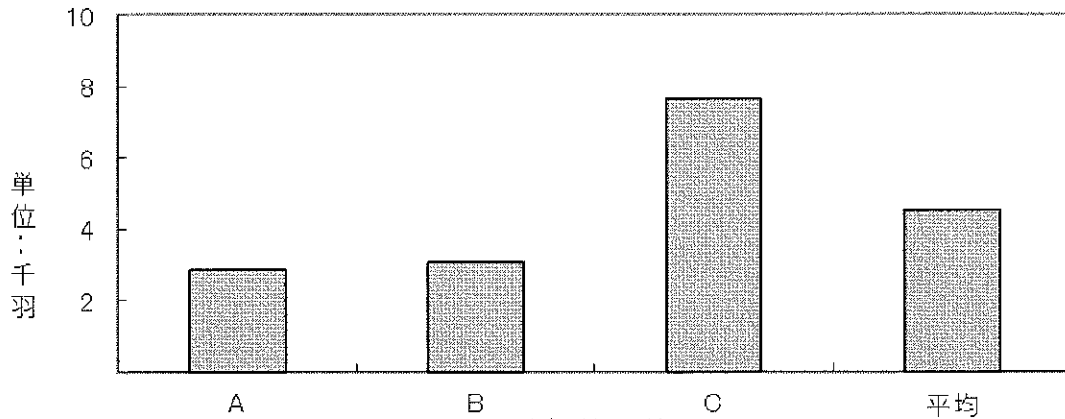


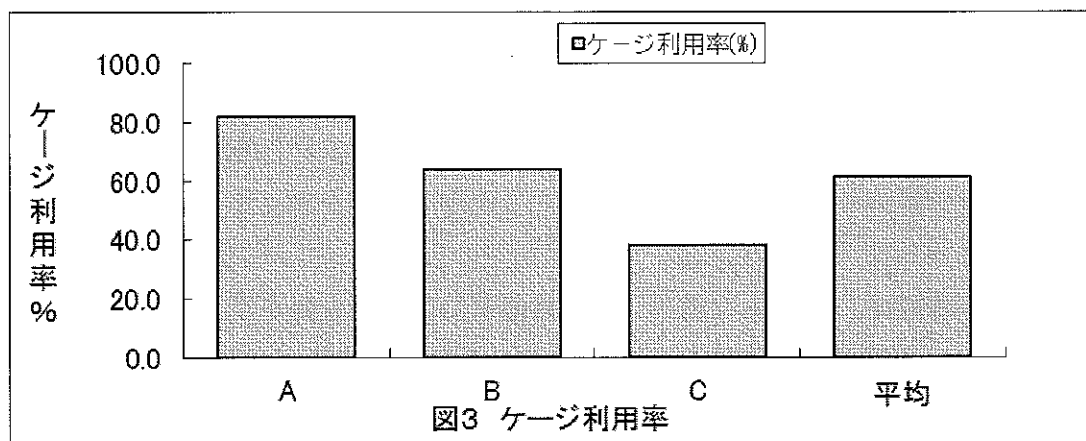
図2 成鶏飼養羽数

経営形態からみると、野菜生産などとの複合経営が2戸で、他の1戸は養鶏の専業経営であった。これを経営組織からみると、全て個人経営で青色申告であった。

## (2) 施設利用と投下労力

### ア. 鶏舎の利用状況

対象経営のケージ利用率は図3に示したとおり、最高は82.1%、最低は38.2%、平均で57.5%となっており、指標値(86~88%)を超える経営はなかった。本県でもかつてはスケールメリットを追求して規模拡大を進めていたが、中小規模の養鶏経営は、直販による有利な販売戦略に切り替えたため、直売で販売できる飼養羽数に抑え、1羽当たりの鶏卵売上を高めて経営を安定させる経営を進めており、余裕のある飼育となっている。今話題となっているアニマルウェルフェアに関する対策の一つとして有利な面も考えられる。また、飼養羽数の多い程ケージ利用率が低い傾向が見られた。



### イ. 所要労力

成鶏1羽当りの年間労働時間を示した。最高は1羽当り3.24時間、最低は1.35時間で、その平均値は1.8時間となっているが、飼養羽数と労働時間の間には高い負の相関が見られ、規模が小さい程多い労働時間となっている。

今回の調査でも、小規模経営ほど労働時間がかかる傾向であるが、この要因として、各経営とも自家販売率が高く、小規模となるため飼養管理のための省力機械装置は少なく、鶏卵の処理と販売に多くの時間をかけているためで、その分1羽当たりの鶏卵売上高は高くなっている。

これからの時代、労働時間の短縮が要求されており、養鶏経営に於いても「ゆとりある養鶏経営」の推進が必要である。このためには、自販機の活用、共同販売の推進、ヘルパー組織の構築等種々の効率的な方向を考えていく必要がある。

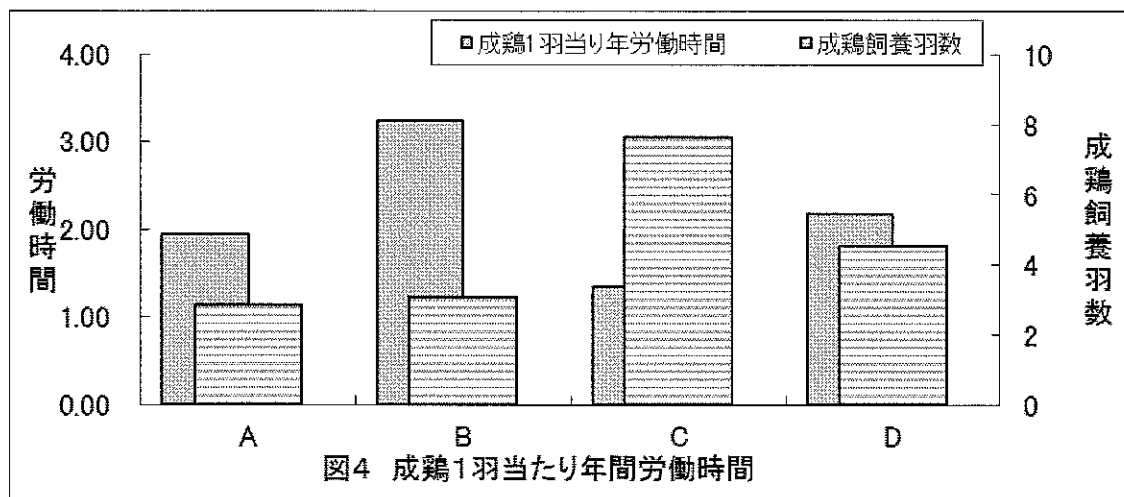


図4 成鶏1羽当り年間労働時間

### (3) 飼養鶏種と更新鶏の導入

#### ア. 飼養鶏種

診断対象の養鶏場が飼養する鶏種（銘柄）は白色卵系として、ジュリア、ジュリアライト及びマリア、褐色卵系として、ボリスブラウン及びもみじ（G-130）、中間色としてさくら（G-360）及びソニアが飼養されており、各経営とも有色卵系を主体に白色系または中間色が飼養されていた。また、特異な鶏種として、アロウカナ鶏の飼養もあり、3色卵販売に活用されていた。

今回実施した各経営は直販が主体で特殊卵や付加価値卵として、直販で販売されており、褐色卵系や中間色系が多く飼養されているのは、顧客のニーズを反映している。

#### イ. 更新鶏の導入と誘導換羽の状況

更新鶏の導入状況は表1のとおりである。初生及び大雛の交互導入が1戸、大雛導入が2戸であった。また、更新鶏は年間4回から8回の導入（平均4回）のロットで構成されていた。直販では粒先の平均化や需要に合わせた鶏卵生産量を確保するためロット数は増えるのが通常

で、今回も前回に比べて導入回数が増加している。この要因は生産量を年末の需要期に集中させるため、衛生面から今まで用いた産卵制御との組み合わせを避けているためと考えられる。また、導入は等間隔ではなく、需要時に生産を合わせるよう産卵制御を組み合わせたり、変則的なえ付け間隔となっている。最近は誘導換羽と呼ばれる給餌を続けた産卵制御方が、開発され、ローテーションも変わってくると考えられる。

表1 更新鶏の導入状況

養鶏場	A	B	C	最大	最小	平均
導入回数	4	8	5	4.00	4.00	4.00
導入ひな日齢	120	120	120	120.00	120.00	120.00

#### (4) 鶏卵の販売

鶏卵の取引価格は、農協や問屋への出荷の場合は、全て新聞相場価格で取引されている。新聞相場は平成25年1月～12月の全農M級加重平均が194円で、この卵価はここ5年間で高い卵価であった。また、飼料の高騰に対応した卵価推移であった。

一方、直販主体の農場では庭先販売、自動販売機による販売、食堂・加工業者・消費者への配達、宅配便等種々の形態に対応しているが、価格は売り手と買い手の相対取引となっている。

その結果、診断対象養鶏場の平均卵価は320円と算定されたが、養鶏場ごとの平均販売卵価を見ると、320円から381円の間であり、全農相場の倍の卵価と大規模経営では考えられない卵価となっている。しかし、3経営の中では68円/kgの開きがあり、地域性も影響するが、工夫と努力次第で非常に有利な経営の展開が可能なが示唆され、努力を要する経営も観られる。

また、鶏卵の販売で興味のある方法として、余剰卵、傷玉、破卵を卵油等種々の加工処理を行い付加価値を付けて、製品を無駄なく販売している例もあり、その具体的手段として、次のことが取り入れられている。

- ① 特定栄養素等の飼料添加による付加価値鶏卵の生産。(ビタミンE強化、DHAリッチ)
- ② 立て看板あるいは折り込み広告、インターネット利用等による自家生産鶏卵の積極的宣伝、たまご冊子等の配布による消費者の意識向上
- ③ 省力化や対面販売を好まない消費者のため自動販売機等の庭先販売施設の整備、充実。
- ④ 鶏舎及び養鶏場周辺の整頓と美化による消費者の誘引。
- ⑤ 合理的な賞味期限の設定・表示など安全性のアピールなど。
- ⑥ 農産物品評会などでの優秀賞の受賞掲示によるアピール
- ⑦ 鶏卵を用いた加工品の製造販売及び卵の有効利用として破卵、傷玉等の加工6次産業の参入(例えば卵油、カステラ、厚焼き等々)販売による増益。特に、第6次作業の活用は新しい事業として図れる事業と考えられる。

## (5) 主な技術的指標からの分析

### ア. 育成率と成鶏損耗率

診断対象養鶏場の更新鶏の導入日齢は表 1 に示すとおり同一ではないので、直接の比較は適当でないが、育成率は平均で 99.7%と指標値 (99~100%) 以上で、良好な成績であった。

また、最近のコマーシャル鶏は育成率が非常に良くなっているが、時々へい死が 10~20%と増加するハプニングが起きたりしており、ひな育成の成否は将来の生産に大きく左右することから、飼養環境の整備等に飼養管理の一層の向上が望まれる。

成鶏で、へい死鶏として記録されるものの中には、淘汰廃棄された駄鶏も含まれているのが通例であるので、へい死鶏と適宜淘汰鶏をまとめて損耗鶏として扱い、成鶏損耗率という概念で包括することとし、その成績を図 5 に示した。全体平均は 2.5%であったが、養鶏場間の差は、最高 (6.0%) と最低 (0.5%) で、5%程度の差であった。指標は 12%以下となっており、指標よりかなり良い成績であった。損耗率が高いと生産効率が低下することになり、育成費用の回収が出来ずに終わることになる。開放鶏舎では真夏の暑熱によるへい死、ウインドウレス鶏舎では停電事故等による大きな損耗を引き起こしかねないので、日頃の飼養管理での危機管理を見直しておくことが重要である。

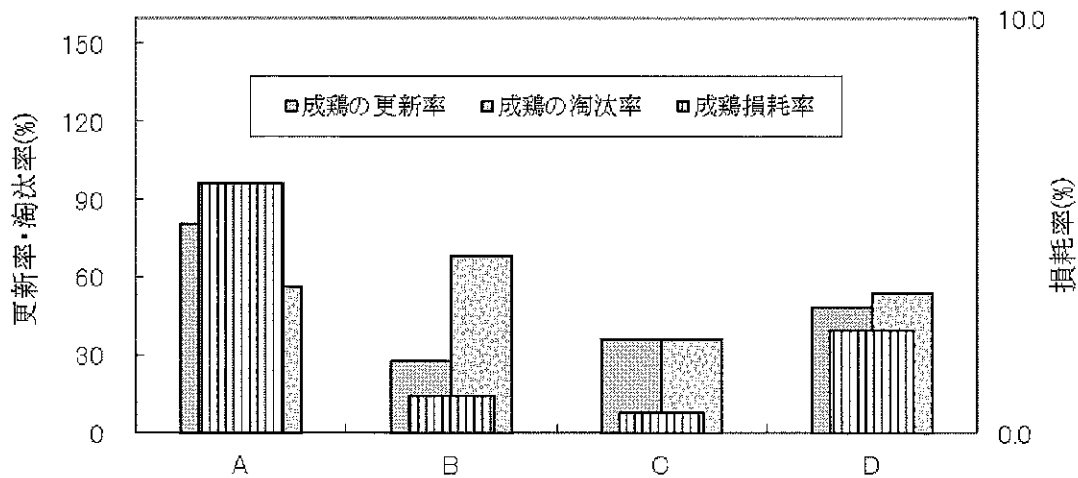


図5 成鶏の更新率・淘汰率・損耗率

### イ. 成鶏の更新率と淘汰率

成鶏の更新率、淘汰率を図 5 に示した。両数値とも養鶏場間の差が大きく、この要因として、産卵制御の実施状況や淘汰方式、淘汰時期の差によるものである。

産卵制御を実施すれば、成鶏の供用期間が長くなるので、当然、淘汰・更新とも低くなる。

また、適宜淘汰の場合は、成鶏の供用期間が長期に亘る場合が多く、淘汰・更新率低下の要因となる。更新率の全体平均は 48.1%であり、指標値 93%より低い値となっている。個々農家の数値は 27.6%~80.6%と大きなバラツキとなっている。

また、淘汰率で最も高かったのは 68.0%で、最低は 36.2%であり、平均は 53.5%で指標値に近

い値であった。最近の鶏種は産卵性能が向上しており、長期間飼育しても生産性の低下が小さいので経営者の考えにより淘汰等の時期に大きな差が出てくると考えられる。

#### ウ. 成鶏飼料の消費量

成鶏1日1羽当りの飼料消費量は図6に示すとおりで、消費量の最低は112.4g、最高は115.5gと、約3.1gの開きがあり、全体平均では114.2gとなり、大きな差では無かった。これには、使用している飼料の栄養価に左右されることが大きく、高タンパク、高エネルギーの飼料を給与している経営もあり、その効果が現れているものと考えられる。

飼料消費量は鶏種、産卵量、給与飼料の栄養水準、鶏舎の環境条件（暑さ、寒さ）及びエサ桶の形態（エサこぼれと密接な関係）等で影響される。最近の育種改良では飼料消費量の改善にウエイトが置かれており、改良は進んでいる。しかし、飼料費は生産コストに大きなウエイトを占め（図12）、バイオアルコール製造の影響で飼料価格が高騰しているため、飼養管理での飼料節減は最重要視すべき項目である。

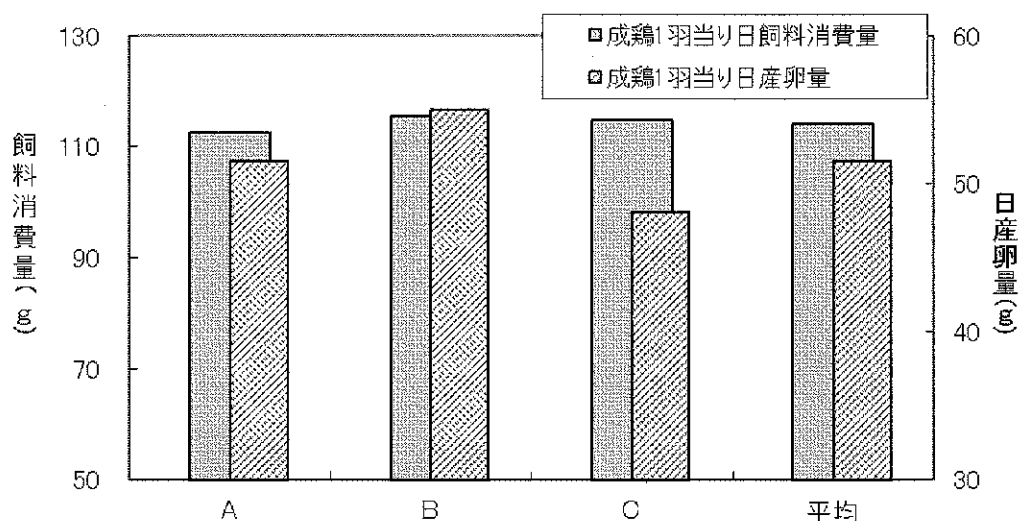


図6 成鶏1日1羽当り飼料消費量と日産卵量

#### エ. 日産卵量

図6に飼料消費量と日産卵量を併せて示した。日産卵量の全体平均の51.5gは、指標値（49～51g）の平均値よりやや低い値にあたる。農家間48.1～55.0gに1.9gの差があったが、各経とも生産卵の全てを自家販売しているため鶏卵処理と販売面に力が入り、飼養管理面に目が届かなくなっていると考えられる。また、時期的な鶏卵需給を見越して意図的な生産調整がなされているケースも見られる。

#### オ. 飼料要求率

近年、採卵鶏の性能と配合飼料の品質の向上とを反映して、飼料要求率はかなり改善がみられる。飼料要求率は、2.09～2.38で、平均2.22であった。飼料要求率の良い経営は、最適な

鶏舎内環境コントロール、飼料の高栄養化、鶏種の選択、餌こぼれに注意等が大きく反映しているものと思われる。

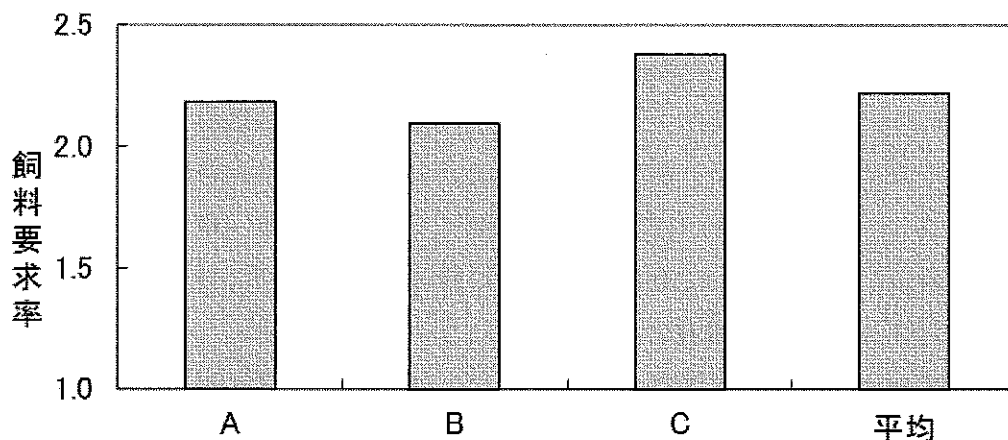


図7 飼料要求率

(6) 主な経済的指標の分析

ア. 販売卵価と売上高

診断対象養鶏場の鶏卵1kg当りの販売卵価は図8に示すように、養鶏場間に差が認められた。最高（381円）と最低（320円）には61円の開きが生じており、販売方法の違いが経営戦略の決め手であることを示唆されている。きめ細かな販売で消費者の多様性に対処することで付加価値を認めてもらい、高卵価を維持するよう努めることが肝要である。

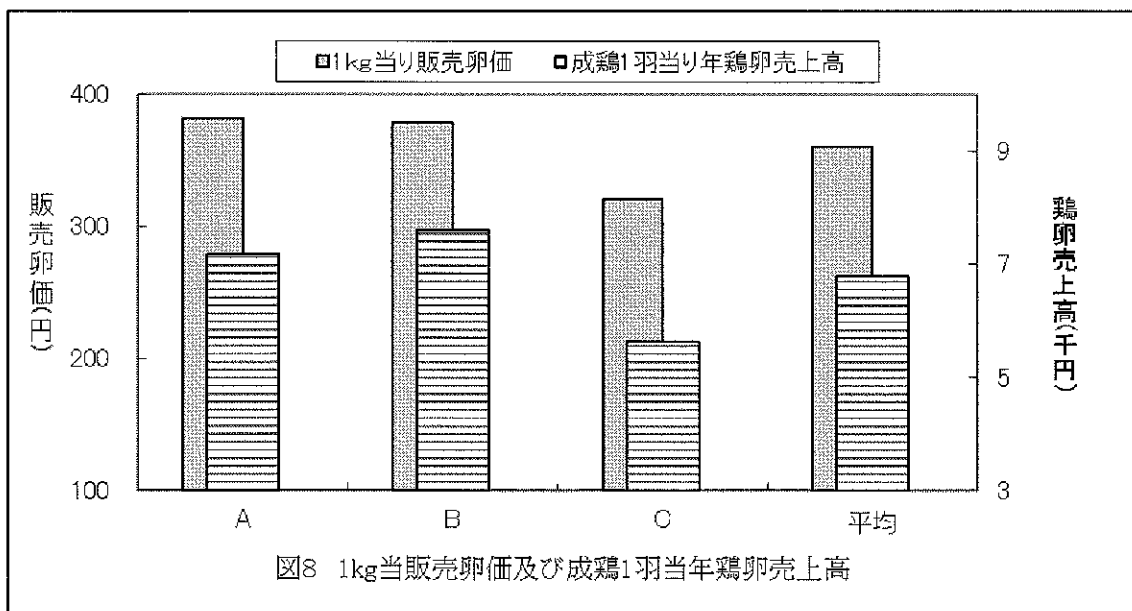


図8 1kg当販売卵価及び成鶏1羽当年鶏卵売上高

このような卵価に支えられた成鶏1羽当りの年間売上高も図8に示した。図に示すように鶏卵1kg当りの販売価格と鶏卵売上高は負の相関となり、高卵価販売を維持することは大変難しいことである。卵価と売上高の上手なバランス上に如何に売上向上を成し遂げるか。常に消費

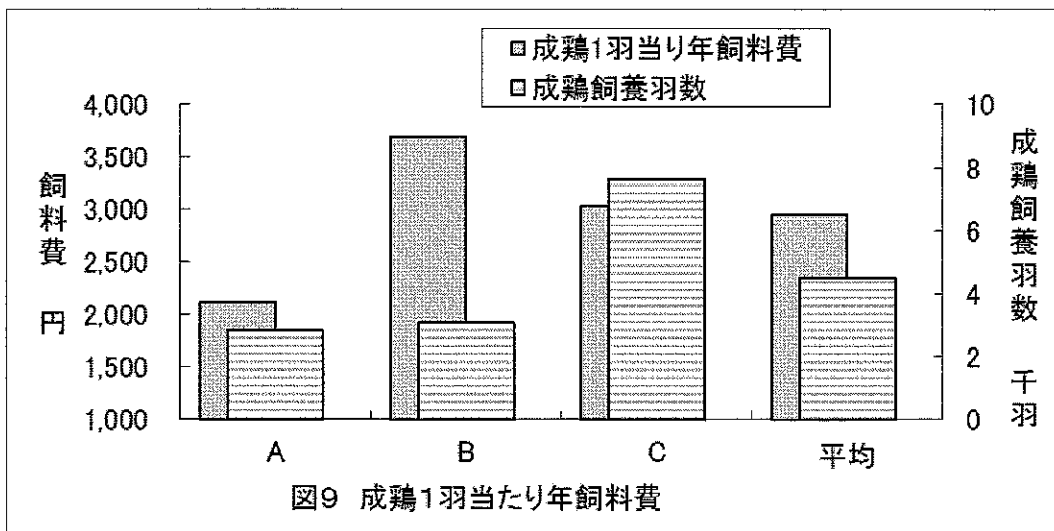


者を分析解析して販売を進めることになる。

イ. 飼料の購入価格と成鶏 1 羽当りの飼料費

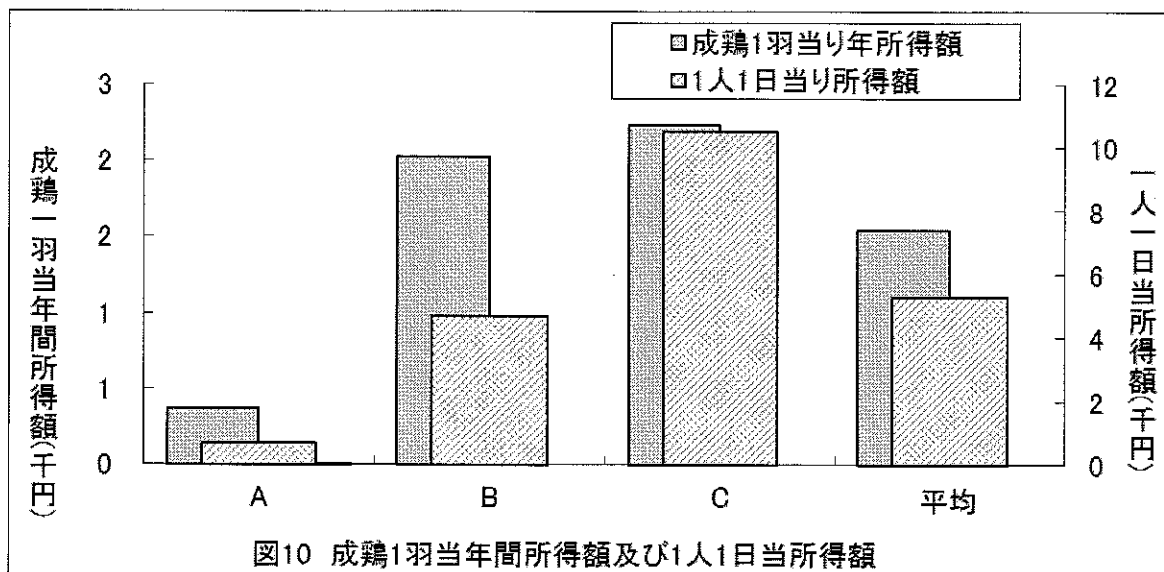
飼料の購入価格は取引先、取引条件（取引量、代金の支払条件、荷姿）、銘柄・品質によって、当然差が出る。特に取引量と価格とは負の相関関係にあり、大量取引では格段に安くなるのが常である。そのため、養鶏場間に較差が生じることとなり、成鶏飼料 1kg 当りの価格は、最高 70.4 円、最低 57.6 円、平均 64.02 であった。総じて差別化鶏卵・付加価値卵を生産している経営では、高品質飼料（主として高蛋白飼料）の給与や、特殊な栄養成分を含む飼料を用いるため、成鶏飼料費が高くなる傾向にあった。

これらの関係を成鶏 1 羽当り年間飼料費として整理すると、図 9 のようになる。

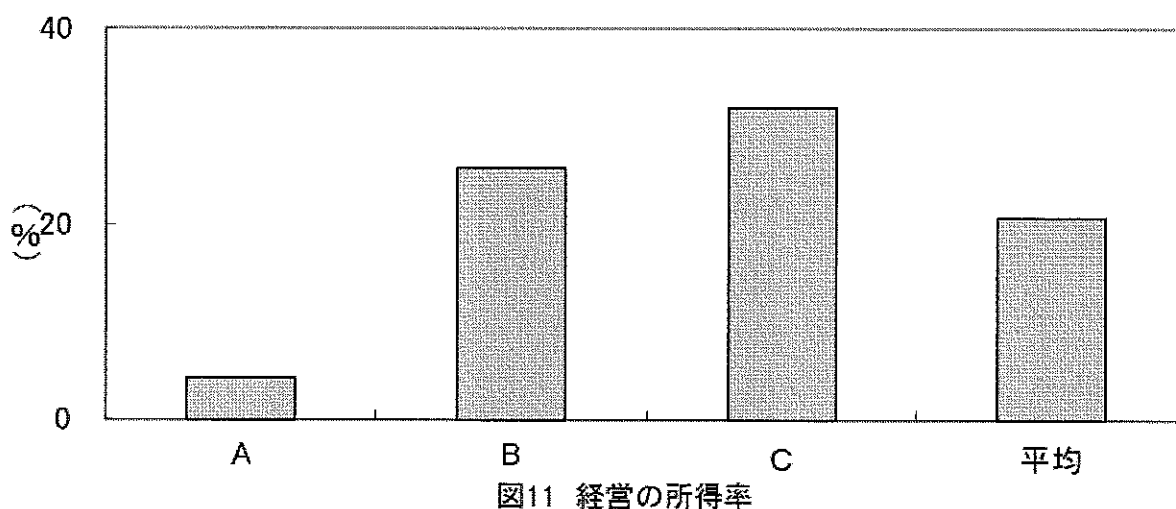


ウ. 所得額と所得率

年間所得額(家族の労働報酬)を成鶏 1 羽当りと、養鶏従事者 1 人当りとして図 10 に示した。成鶏 1 羽当りの所得額は最高 2,230 円、最低 371 円で、平均は 1,540 円であった。このように、経営間の較差に相当の開きが生じたのは、飼養羽数、ローテーション、飼料費、資本装備等と売上高とのバランスの良否が大きく関与している。



これらの状況を養鶏従事者1人1日当りの所得率の視点からまとめると図11のようになり、指標値でも経営の類型に応じて16~33%と言う幅を持たせてはいるものの相当のバラツキが認められ、最高で32%、最低は4.3%となり、平均で20.7%となった。



### (7) 生産原価の分析

#### ア. 経営費と生産原価

鶏卵1kgの経営費（自家労賃は含まない）と経営費から副産物収入（鶏ふん及び廃鶏等の売却収入）を差し引いて求めた生産原価の関係を図12に示した。平均では経営費が275円、生産原価が409円となり、その差は134円であった。

図12の並立する棒グラフ間での差が大きいケースほど廃鶏と鶏ふんの収入が多い経営と言える。経営により副産物の販売が上手くいっているケースと、努力が必要な経営で差が出ている。

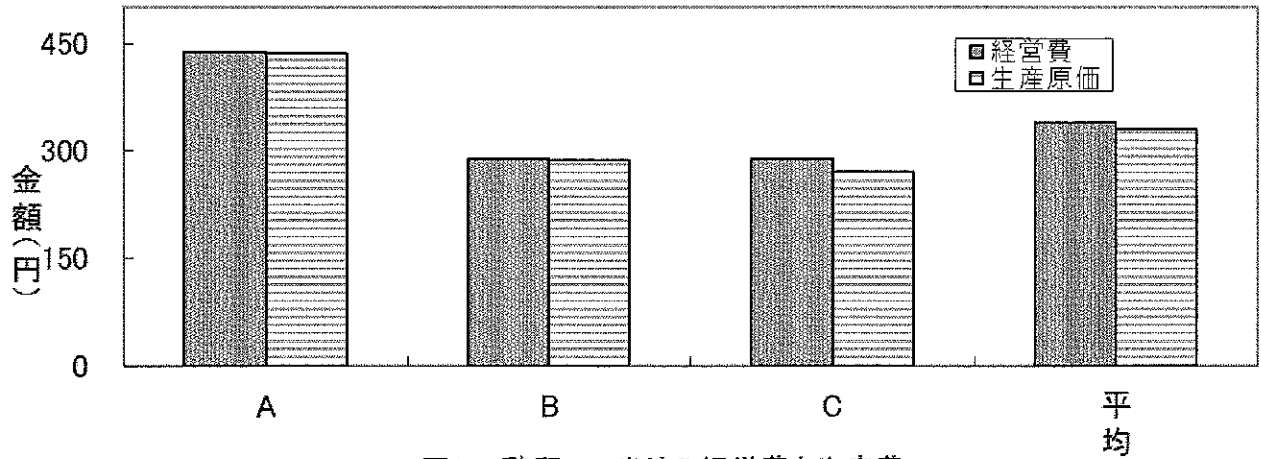


図12 鶏卵1kg当りの経営費と生産費

特に、廃鶏収入を見込める例が少なくなり、むしろ逆に処理するのに廃鶏処理料を支払う例が一時多くなっていたが、最近は無償での処理が多くなっている。また、鶏ふんの自家消費経営もあり、副産物の販売は各経営とも類似の傾向であった。この自家消費経営は野菜との複合で、有機栽培との組み合わせで、上手な経営を推進している。

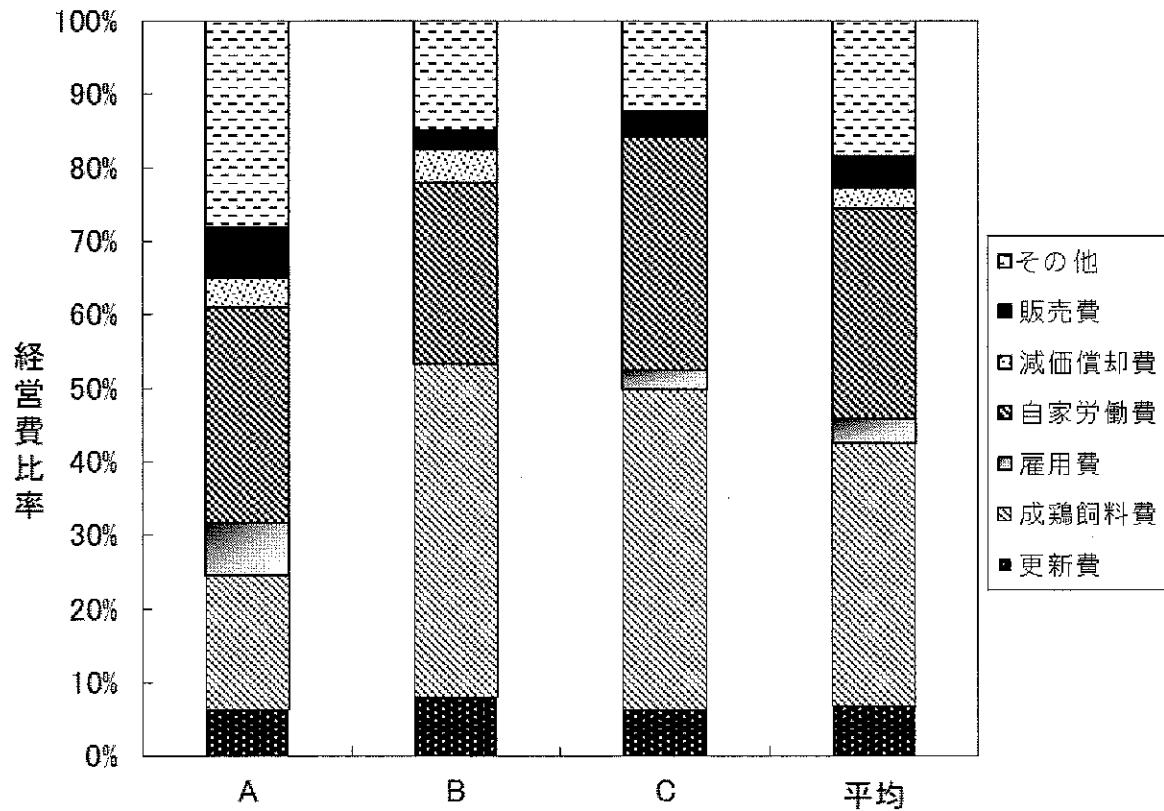


図13 鶏卵1kg当りの経営費の構成

鶏卵 1kg 当りの経営費の構成内容は図 13 に示した。経営によって項目は異なっているが、生

産コストの大部分は、自家労働、成鶏飼料費及び更新費で占めている。また、生産コストで最も大きなウエイトを占める飼料費についてみると、付加価値卵や差別化卵の販売に熱心な経営ほど多く嵩んでいた。また、減価償却費は施設機器の導入時期、導入数、投資額によってかなり異なってくる。平均で 14.32 円/kg となったが、0.36～24.82 円と償却がほとんど終わった経営と、まだまだ頑張る必要がある経営と、千差万別であった。

雇用費は飼養羽数が少なく自家労力で乗り切ろうとする経営では当然ながら少ないが、雇用費の平均は 17.99 円/kg であった。

鶏卵の自家販売のウエイトが増すにつれ、包装費、宣伝費、宅配料、販売手数料のいわゆる販売費が増加している。対象農家の平均は 22.05 であったが、このうち包装費にかなりの経費をかけている例もあった。

### 3. 指導の方向と対策

平成 25 年は平成 20 年からの原油高、トウモロコシのバイオエタノール原料と飼料原料のバッシングによる飼料価格の高止まりと、各種原材料の値上げによる生産コストの上昇に見舞われた。更に、消費の減退に伴い卵価の低迷が続き、養鶏経営にとって危機的状況下での経営であった。

このような状況の中で、平成 25 年に実施した診断対象経営について課題とその改善方向を次に示した。

#### (1) 飼料高騰対策（生産コストを意識する）

有利販売を展開している経営では、ともすれば生産性とかコストに対する意識や関心が希薄になる傾向がある。しかし、鶏の育種改良は常に進められており、能力にあった飼養管理が生産性向上とコスト低減へつながる重要な項目で、特に、飼料高騰等生産コストが上昇している状況では、養鶏経営に於いて飼料効率は常に注意を払っておく必要がある。

飼料摂取量は経営によってかなりの開きがあることから、給餌法を考えて飼養管理を行うことが重要である。飼料原料は 100%近くを輸入に頼っており、バイオエタノール生産にトウモロコシが使われる状況下に於いて原料価格の上昇は避けられない状況で、コスト低減に係わる大きな要因となる他の原材料（飼料米、エコフィード、小麦等）の利用も考える必要がある。これら、新しい原料には、卵黄色が薄くなる欠点も見られるが、この欠点を売りにしている経営も見られ、経営手腕とも言える。

#### (2) 鶏卵の品質と安全性の確保は最重要です

鶏卵の安全性の確保は鶏卵生産販売にとって最も重要な事項である。「食品の安全性に関する意識等調査」で、食分野の安全性に係る不安感が大きいと指摘している消費者が増えている。

この様に、消費者の安全に対する目は厳しくなっており、食品衛生上の問題発生は、鶏卵の消費に致命的な打撃となる。経営者は鶏卵の品質と安全性について常に努力し、対策を講じた上で消費者を啓発し、顧客の確保に努めることが重要である。

需給のバランスを取るため、飼養管理で産卵制御を取り入れることが多々ある。しかし、鶏にはかなりのストレスとなり、免疫機能の低下から悪玉菌の増殖が促進されることもある。此を緩和する誘導型換羽による産卵制御方式（絶食を行わない）も提唱されている。いろいろな方式での産卵パターン作りが必要である。

また、最近のアニマルウェルフェアの指針では絶食は許されなくなっており、給餌を続けて産卵制御を行う誘導換羽法と言われる新しい技術が開発されている。

### (3) 鶏卵の生産量と販売量の調整による生産量の一定化

全量を直販している経営では、時期によって需給にアンバランスが生じる。鶏のローテーションを上手に行って需給のバランスを合わせるのは至難の業といえる。このため、余剰卵の発生や販売卵の不足に苦慮しているケースが見られる。日頃から卸問屋やGPセンターとの取引の実績を作って、規格卵をGPセンターに提供するなど、信頼関係を構築し、直販と卸売りの両立を考えた経営も必要である。

また、パソコン等の表計算を用いて、雛の導入調整（時期、羽数）と産卵制御の手法を用いた成鶏のローテーションを農場の実情に合わせてシミュレーションするのも経営を考える一助となる。

余剰卵、破卵、傷玉卵を無駄なく、卵油、プリン、厚焼き卵等に加工販売し、経営向上に努めている養鶏場もあり、加工販売の工夫は重要であると考えられる。

また、余剰卵の6次産業での活用も考える必要がある。付加価値を付けることで経営改善への寄与も重要である。

### (4) 消費者ニーズをキャッチ

消費者は多様性であるため養鶏場としては付加価値卵、特殊卵等に対して絶えず新しい取り組みが必要である。その上に第6次産業を加味した経営の構築。

また、鶏卵の表示問題では公正取引委員会事務総局から鶏卵の表示の適正化に対する要望が生産者団体に出ており、適正表示が重要となっている。特に、付加価値卵については公正競争規約施行規則の定めに基づいて、納得のいく説明をすることが出来るので有利な販売が出来ると考えられる。

### (5) 畜産環境、衛生対策等について

都市環境の中で養鶏経営を継続するには、安全性と同様に畜産環境に対する市民の厳しい目

を考慮することは重要である。一般的に都市部での畜産経営では、地域住民の生活に影響を及ぼす悪臭、騒音、ハエ等の発生防止について、かなり整備・改善されてきたが、更なる配慮が重要である。

また、県下の養鶏場が点在的分布になったことと、ワクチンの開発・普及等によって鶏病の発生は減少している。しかし、近年は鳥インフルエンザ等海外伝染病も近隣で発生しており、鶏病浸入も一層危惧さる。鳥インフルの発生が渡り鳥、小動物（ネズミ、ゴキブリ、ワクモ等）、常に周辺に見られる動物・昆虫等による伝搬が危惧される。一旦伝染病が発生すると甚大な被害となるので、鶏病の予防には万全を期して戴きたい。

4. 経営診断分析表

(1) 養鶏経営診断農家別年次別平均値(H10年～H25年)

項目	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	最大	最少	平均
年間平均羽数	19,524	19,053	29,413	29,007	19,567	19,567	18,974	20,851	4,542	4,344	3,935	4,088	4,203	3,935	4,131	4,349	29,413	3,935	13,676
常時従業者数	4.8	4.7	7.5	7.0	5.6	6.0	4.9	6.2	3.5	3.9	3.5	3.9	3.5	3.5	3.5	4.4	7.5	3.5	4.8
年間1羽当りの労働時間	1.56	1.55	1.53	1.36	1.52	2.00	5.71	1.90	2.03	2.31	2.13	2.20	1.94	2.13	1.95	2.18	5.71	1.36	2.12
ケージ利用率	78.3	75.5	75.4	79.5	73.8	74.0	64.5	64.7	54.7	46.5	58.7	53.0	55.8	58.7	63.4	61.4	79.5	46.5	65.1
年間餌付回数	3.6	5.0	6.2	5.6	4.6	7.0	4.6	5.0	5.0	6.0	8.8	8.8	7.2	6.0	7.5	7.0	8.8	3.6	6.1
育成率	98.9	98.0	99.4	99.3	96.8	99.1	98.7	98.2	99.7	99.7	99.8	99.5	99.7	99.8	99.6	99.5	99.8	96.8	99.1
更新率	76.5	77.9	90.9	74.6	74.6	81.0	94.2	86.9	90.5	82.6	77.7	88.8	76.9	77.7	65.4	48.1	94.2	65.4	81.2
淘汰率	74.3	80.4	73.1	62.0	67.8	68.0	89.9	80.9	88.4	71.8	80.0	82.2	81.8	80.0	62.4	53.5	89.9	62.0	76.2
へい死(標耗)率	5.3	12.7	7.7	6.6	7.0	7.0	8.6	4.8	3.5	3.4	6.0	5.4	6.2	6.0	3.6	2.5	12.7	3.4	6.3
1日1羽当りの飼料消費量	95.7	101.9	103.0	100.9	102.6	101.0	104.8	103.0	101.1	102.4	101.6	108.2	105.1	101.6	98.0	114.2	108.2	95.7	102.0
飼料要求率	2.06	2.20	2.13	2.20	2.10	2.00	2.03	2.11	2.20	2.20	2.44	2.30	2.39	2.44	2.27	2.22	2.44	2.00	2.20
1日1羽当りの産卵量	46.43	46.20	47.91	45.70	50.38	49.00	50.94	48.71	46.63	44.84	42.50	46.20	44.82	42.50	45.18	51.53	50.94	42.50	46.53
労働時間当りの採卵量	23.4	24.4	18.4	19.6	14.7	17.0	14.5	15.2	10.5	8.4	8.4	8.5	9.0	8.4	8.6	9.8	24.4	8.4	13.9
成鶏1羽当り年鶏卵売上高	4,362	4,402	4,912	4,388	4,496	4,504	5,288	5,681	6,035	6,308	6,281	6,888	6,716	6,281	6,395	6,795	6,888	4,362	5,528
年飼料費	1,692	1,559	1,641	1,545	1,741	1,914	1,958	1,935	1,964	2,296	2,408	2,454	2,298	2,408	2,212	2,945	2,454	1,545	2,002
年償却費	441	517	378	397	411	379	808	628	634	642	426	451	392	426	1,329	276	1,329	392	548
年所得額	556	866	1,021	476	416	306	308	673	943	1,305	769	738	2,247	1,589	2,203	1,540	2,247	306	961
経営の所得率	6.6	14.7	19.5	7.9	7.2	7.2	8.1	20.0	19.9	19.9	22.3	18.2	30.9	22.3	25.5	20.7	30.9	6.6	16.7
1日1人当りの所得額	-7,710	17,472	16,457	2,026	823	846	4,427	11,580	7,211	8,866	8,841	7,667	8,841	8,841	7,429	5,296	17,472	-7,710	6,908
卵1kgの販売価格	258.0	272.9	283.1	267.8	251.3	266.0	288.7	326.3	358.6	385.4	425.5	398.4	417.0	425.5	342.6	360.1	425.5	251.3	331.3
卵1kgの生産費	250.6	235.8	235.3	264.5	271.9	288.0	279.5	302.0	307.0	352.3	381.6	430.4	367.0	381.6	327.2	275.0	430.4	235.3	311.6
卵価 - 生産費	7.4	37.1	47.8	3.3	-20.6	-22.0	10.1	26.3	51.6	33.1	43.9	-92.0	50.0	43.9	15.5	85.1	51.6	-92.0	15.7
卵価価格比	5.60	6.60	7.10	6.80	7.80	5.90	5.92	6.56	7.22	6.69	5.88	6.90	7.40	5.88	6.10	5.46	7.80	5.60	6.56
成鶏飼料価格/kg	44.96	40.84	39.10	39.00	44.60	43.60	48.69	50.17	50.19	57.84	71.65	64.00	62.94	64.61	66.36	68.89	71.65	39.00	52.69
産鶏1羽の価格	8.6	15.2	7.0	16.7	10.6	5.7	5.7	1.9	0.4	3.1	0.3	1.9	0.4	0.6	0.8	0.3	16.7	0.3	5.3
卵1kg当りの副産物収入	9.5	10.1	11.2	8.9	7.4	11.9	7.8	9.3	6.2	6.3	2.2	5.3	3.7	7.5	3.3	1.7	11.9	2.2	7.4

(2)平成 25 年度 養鶏診断農家総合診断分析表

項目	単位	A	B	C	最大	最小	平均
成鶏飼養規模	羽	2,852	4,800	20,000	20,000	2,852	9,217
成鶏年間平均羽数	羽	2,341	3,062	7,645	7,645	2,341	4,349
飼養成鶏群構成ロット数	群	8	10	5	10	5	8
常時従事者数	人	5.0	4.0	4.2	5.0	4.0	4.4
成鶏 1 羽当り年労働時間	時間	1.94	3.24	1.35	3.24	1.35	2.18
ケージ利用率	%	82.1	63.8	38.2	82.1	38.2	61.4
成鶏舎収容羽数/3.3 m <sup>2</sup>	羽	26.0	15.8	198.6	198.6	15.8	80.1
飼養鶏種		ホリス	ホリス	ホリス、ソニア、アローカ			
強制換羽		実施せず	実施せず	実施せず			
更新鶏導入日齢	日	120 日齢	初生、120 日齢	120 日齢			
育成率(150 日齢)	%	99.8	99.4	99.4	99.8	99.4	99.5
成鶏舎移動日齢	日	121.0	121.0	125.0	125.0	121.0	122.3
成鶏供用期間(150 日より)	月	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
更新率	%	80.6	27.6	36.2	80.6	27.6	48.1
淘汰率	%	56.4	68.0	36.2	68.0	36.2	53.5
成鶏損耗率	%	6.0	0.9	0.5	6.0	0.5	2.5
成鶏 1 羽当り年飼料消費量	kg	41.0	42.1	41.9	42.1	41.0	41.7
成鶏 1 羽当り日飼料消費量	g	112.40	115.50	114.70	115.50	112.40	114.20
飼料要求率		2.18	2.09	2.38	2.38	2.09	2.22
成鶏 1 羽当り年産卵量	kg	18.7	20.1	17.6	20.1	17.6	18.8
成鶏 1 羽当り日産卵量	g	51.50	55.00	48.10	55.00	48.10	51.53
破卵率	%	4.3	1.0	8.5	8.5	1.0	4.6
労働 1 時間当り産卵量	kg	9.7	6.7	12.9	12.9	6.7	9.8
労働 1 日当り産卵量	kg	34.2	46.6	82.8	82.8	34.2	54.5
成鶏 1 羽当り年鶏卵売上高	円	7,161	7,608	5,617	7,608	5,617	6,795
成鶏 1 羽当り年飼料費	円	2,113	3,688	3,035	3,688	2,113	2,945
成鶏 1 羽当り年償却費	円	466	357	6	466	6	276
成鶏 1 羽当り資本装備資産額	円	4,346	1,494	271	4,346	271	2,037
成鶏 1 羽当り借入金	円	0	0	0	0	0	0
年所得額(経営全体)	万円	87	618	1,705	1,705	87	803
成鶏 1 羽当り年所得額	円	371	2,020	2,230	2,230	371	1,540
1 人 1 日当り所得額	円	677	4,685	10,525	10,525	677	5,296
所得率	%	4.3	25.8	32.0	32.0	4.3	20.7
卵餌価格比	倍	7.4	4.6	4.4	7.4	4.4	5.5
卵 1kg 当り生産費(自家労賃含む)	円	513.6	358.0	355.2	513.6	355.2	408.9
卵 1kg 当り生産費(自家労賃含まない)	円	331.6	264.0	229.3	331.6	229.3	275.0
卵 1kg 当り販売卵価	円	381.34	379.00	320.00	381.34	320.00	360.11
成鶏飼料価格/kg	円	51.56	82.59	72.50	82.59	51.56	68.88



## (3)平成 25 年 養鶏診断農家鶏卵生産費分析表

## ア. 金額(円/1Kg)

科 目	対 象 農 家 コ ー ド			最大	最小	平均
	A	B	C			
鶏更新費	39.12	31.08	24.80	39.12	24.80	31.66
成鶏飼料費	112.54	173.30	172.90	173.30	112.54	152.91
(内飼料添加剤費)	0.00	11.00	0.00	11.00	0.00	3.67
保健衛生費	4.27	0.19	0.00	4.27	0.00	1.49
水道光熱費	30.73	19.60	4.23	30.73	4.23	18.19
運搬費	2.96	6.63	8.96	8.96	2.96	6.18
修繕費	65.60	2.97	1.68	65.60	1.68	23.42
減価償却費	24.82	17.78	0.36	24.82	0.36	14.32
小農具・消耗諸材料費	3.82	5.05	0.11	5.05	0.11	3.00
自家労働費	181.97	94.35	125.94	181.97	94.35	134.09
雇用費	44.14	0.00	9.84	44.14	0.00	17.99
その他生産費用	4.93	2.95	4.58	4.93	2.95	4.15
販売費	42.65	9.83	13.67	42.65	9.83	22.05
一般管理費	63.07	15.35	27.34	63.07	15.35	35.26
借入金利息	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他営業外費用	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
経営費計	619.29	383.60	396.25	619.29	383.60	466.38
△副産物収入	2.31	2.72	0.00	2.72	0.00	1.68
差引生産原価	616.99	380.88	396.25	616.99	380.88	464.71

## イ. 構成比(%)

科 目	対 象 農 家 コ ー ド			最大	最小	平均
	A	B	C			
鶏更新費	6.32	8.10	6.26	8.10	6.26	6.89
成鶏飼料費	18.17	45.18	43.63	45.18	18.17	35.66
(内飼料添加剤費)	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	
保健衛生費	0.69	0.05	0.00	0.69	0.00	0.25
水道光熱費	4.96	5.11	1.07	5.11	1.07	3.71
運搬費	0.48	1.73	2.26	2.26	0.48	1.49
修繕費	10.59	0.77	0.42	10.59	0.42	3.93
減価償却費	4.01	4.64	0.09	4.64	0.09	2.91
小農具・消耗諸材料費	0.62	1.32	0.03	1.32	0.03	0.65
自家労働費	29.38	24.60	31.78	31.78	24.60	28.59
雇用費	7.13	0.00	2.48	7.13	0.00	3.20
その他生産費用	0.80	0.77	1.15	1.15	0.77	0.91
販売費	6.89	2.56	3.45	6.89	2.56	4.30
一般管理費	10.18	4.00	6.90	10.18	4.00	7.03
借入金利息	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他営業外費用	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
経営費計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
△副産物収入	0.37	0.71	0.00	0.71	0.00	0.36
差引生産原価	99.63	99.29	100.00	99.88	94.45	99.64